

## 令和3年第10回教育委員会会議

令和3年7月28日

午前 9時30分 開会

### 1 開会宣言

○葛西教育長 それでは、ただいまから令和3年第10回教育委員会会議を開会いたします。

会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告願います。

○杉本教育総務課長 本日欠席者はありません。全員出席でございます。

以上です。

○葛西教育長 傍聴者はお見えですか。

○疋田教育総務課主事 傍聴者は見えません。

### 2 会議録署名者の決定

○葛西教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、数馬委員と豊田委員とでお願いしたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 御異議がないようですから、提案どおり決定いたします。

### 3 議事

○葛西教育長 これより議事に入ります。

本日の議事は、議案1件、協議事項2件ですが、議案第25号、令和4年度使用中学校用教科用図書の採択については教科書採択に関する案件であるため、また、協議事項の組織の見直しについては、今後、市議会等で審議、検討される事項であるため、非公開で審議する必要があると考えます。委員の皆さん、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 御異議がないようですから、非公開にて審議いたします。

(1) 議案

議案第25号 令和4年度使用中学校用教科用図書（歴史分野）の採択について

○葛西教育長 それでは、さきにお諮りしました非公開の案件に入ります。

(3) 協議

2 第4次四日市市学校教育ビジョンについて

○葛西教育長 それでは、公開の案件に入ります。

それでは、協議事項、第4次四日市市学校教育ビジョンについての説明をお願いします。

○内村教育監 教育監の内村でございます。よろしくお願いたします。

教育ビジョンの策定につきましては、別冊の資料を事前に送付させていただいたと思います。そちらの資料で御説明させていただきたいというふうに思います。

今回配らせていただいた資料に関しましては、もう既に一度元の案になるものについては提示させていただいておりますので、新たに今日初めて御覧いただくという資料についてはないのかなというふうに思っております。提案させていただいたものから、今までいろいろ御協議いただき、委員の皆さんの御意見を反映し、私どもとしては、庁内の討議も得て、以前よりは随分分かりやすくなったんじゃないかなというふうに思っております。

ただ、今日の会議の位置づけといたしましては、次回8月11日の教育委員会会議では、改めて御協議、それからその段階では素案を提示させていただきたいというふうに思っております。ですので、その素案に意見を反映させていただきたいというふうに思っておりますので、今日の御意見を伺いまして次回の8月11日を迎えたいというふうに思っておりますので、様々な御意見をお聞かせ願いたいなというふうに思っております。

それでは、新たな提案はないといいながら、若干ここまでの経過も含めながら、できるだけ皆さんの御意見の時間を確保したいと思っておりますので、端的に説明させていただきたいというふうに思います。

1ページでございますが、2つ目の段落になります。現在の第3次四日市市学校教育ビジョンの期間としましては、キーワードとしてのグローバル化、共生社会、Society 5.0、SDGs、コロナウイルス感染症と非常に社会を取り巻く状況が激しいときでございました。今回策定しております第4次のビジョンに関しては、こういった社会情勢の変化も踏まえたものとさせていただいております。

総合計画とビジョンの位置づけについては図で示させていただいたとおりでございます。

一番下になりますが、計画期間ですが、これも既に御提案させていただきましたように、従来は四日市教育大綱とビジョンを並行して同時期に計画策定を行っていたわけですが、今回の第4次教育ビジョンの見直し検討期間を従来1年で行っていたものを2年に分けて、教育大綱と1年ずらしてすることにより、教育大綱の理念がより教育ビジョンに生かせるようなスケジューリングになっているというふうに思います。今後このような1年ずつずれた形での策定ということで計画してまいりたいというふうに考えております。

2ページをお願いいたします。基本理念としましては、四日市が目指す姿については提示のとおりでございます。2番の基本的な考え方になりますが、「生きる力」、「共に生きる力」につきましては、もうこれは本市が平成17年から一貫して大切にしてきた力でございます。

2つ目の段落後半ですが、第3次四日市市学校教育ビジョン、こちらは一定の成果を得たということで、第3次のビジョンを基本的には継続していきたい、4次のビジョンにおいても継承していきたいというふうに考えております。

第3次のビジョンの中では、社会人になっても通用する問題解決能力というのを子どもにつけたい力として挙げさせていただきましたが、今回の4次には、問題解決能力に加え、言語能力、情報活用能力といった現在子どもたちを取り巻く環境、それから子どもたちが未来を生きるためにつけていく力、そういった観点からこの2点についても追加させていただきました。

3ページでございます。施策と体系ということで、これらをより施策として具現化していくに当たり、3つの重点を置きました。1つは四日市市新教育プログラムの着実な実践、2つ目がICTの効果的な活用、四日市市GIGAスクール構想でございます。3つ目が学校における教職員の働き方改革の推進、これら3つの施策を、それぞれ横串を刺したような形で連携させながら進めてまいりたいというふうに考えております。

4ページ、お願いいたします。5つの基本目標ということで、子どもにつけたい力として基本目標の1から3、子どもの学びを支える学校づくりということで基本目標の4と5ということで、5つの基本目標を設定させていただきました。

子どもにつけたい力に関しましては、現在の第3次のビジョンにおきましては、子どもにつけたい力を知・徳・体と3つに分類し、それぞれ基本目標1を知というように割り振っておりましたが、今回その中でも、徳・体の部分は一体的に育成するものだという視点

の中で、基本目標2にこころとからだの健全な育成ということでまとめさせていただきました。

基本目標3につきましては、新たな視点として未来社会を創造する力の育成、学校、義務教育活動が終わった後の子どもの力を見越した、そういった目標設定にさせていただきました。このことにつきましては教育委員の皆さんからも高い評価を得たというふうに思っております。

それから、子どもの学びを支える学校づくりとして、基本目標4に全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現ということで、教育環境、それから指導体制等について記載させていただきました。基本目標5は学校教育力の向上ということで、働き方改革、地域との連携等についてまとめさせていただきました。

5ページ、施策の体系図ということで、それぞれ今申し上げましたことを図式化して示させていただいております。

それでは、次、6ページは横長A3サイズになります。全体構想ということで、ビジョンの目指すものが、一枚で端的に分かりやすいものをとということで、このA3、1枚にまとめさせていただきました。

「生きる力」、「共に生きる力」については、言語能力、問題解決能力、情報活用能力の育成を図ることによって育成が図れるというふうに考えております。また、先ほども申しましたが、問題解決能力に加え、言語能力、情報活用能力を加えさせていただきましたが、これらもそれぞれの力3つがばらばらではなく関連づきながら、育成が図られるものだというふうに考えております。

この表の中で、施策に対してそれぞれ目指す子ども像、学校像ということを示させていただきました。これを示すことによって教育委員会の施策と学校の取組が共通認識の下、一元的に進めることができるものであるというふうに認識しております。また、主な内容ということで、全てではありませんが、それぞれやはり現在の教育課題に関することについて例示させていただきました。

7ページ、8ページにつきましては、新教育プログラムに関する記載ですので、今回は省かせていただきたいと思います。

9ページですが、前回お示しさせていただきました四日市市GIGAスクール構想に関してです。これにつきましては、GIGAスクール構想の目的等が明らかになるようにということで、レイアウト等修正をかけさせていただきました。9ページ、10ページはG

I G Aスクール構想でございます。

11ページ、働き方改革 v e r . 2 ということで今後、v e r . 1 と正式には言っておりませんでした。働き方改革の中で、アシスタントの導入や、それからオートメッセージや高性能コピー機の導入ということで教育環境を整えてまいりました。今後、v e r . 2 の中では、赤枠囲みさせていただきましたが、取組2ということで学校業務のデジタル化の推進、ここに注力してまいりたいというふうに考えております。

12ページでございます。計画の進捗管理と評価でございますが、これにつきましては、従来と大きな変更はございません。P D C A サイクルを中心に回していきたいというふうに思います。

先日も教育評価委員の皆さんにこちらへお越しいただいて御意見をいただきましたが、それは右下の教育委員会の点検・評価報告書、教育評価委員の知見活用というところに当たるのかなというふうに思いますが、今後も定期的にこういったサイクルが機能し、進捗しているのかということについては適宜、会議等、委員の皆さんの御意見もお伺いしながら進めてまいりたいというふうに考えております。

13ページ、成果指標に関してでございます。

14ページ以降はそれぞれ個別の目標に関する評価ですので、ここで触れさせていただくのは避けたいというふうに思います。ただ、主要課題とされていること、例えば小学校の高学年における教科担当制、あるいはプログラミング教育、そういったことについてそれぞれ関連するところに位置づけて記載させていただいております。それぞれの目標に関しましては、もう既にお示しさせていただいたように、全ての項において、例えば14ページでしたら、主体的・対話的で深い学びの実現というところでは一番上に目指す子どもの像、その下、点々の四角囲みのところで、それを受けて、狙いを受けた施策の必要性についての記載をさせていただいております。

施策の内容が14ページですね。それ以降、15ページへ行っていただきますと、学校の取組例、評価指標、それぞれの項目につきましてそういった構成で成立しております。

私からは以上でございます。また貴重な御意見をたくさんお伺いして、なるべく次回の8月11日の素案の段階に反映してまいりたいというふうに考えますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○葛西教育長 前回皆さんからいただいた意見を事務局でしっかり精査させていただいて、

当然変えなきゃならないことについては変えさせていただく作業を進めてまいりました。今日改めて見ていただいたわけですが、ここで御意見等をいただければなと思います。

5ページの施策の体系図、それから6ページの第4次四日市市学校教育ビジョンの全体構成、この2枚によって全体像というんですか、何を重点にしていかなきゃならないのか、あるいは個別でこういうことに力を入れていきたいということが一覧でよく分かるように作っていただいていると思いますが、そのほか、GIGAスクール構想等、それから公立学校における働き方改革ver. 2、これらもございますので、どの点からでも結構ですので、御指摘あるいは御意見、御感想をいただきたいなと思います。

鈴木委員、お願いします。

○鈴木委員 基本理念のところでは施策の体系図なんですけど、これも白書とかにも載るものなんですよ。また改めて見たときに、施策の重点のところは黒になって、詳しく施策の体系の説明に載っている。こういうのも載るといいますよね。これは載らないんですか。

○葛西教育長 どの部分でしょうか。

○鈴木委員 3ページ、施策の重点ということで1、2、3と載ってありますよね。その後、子どもたちにつけたい力と、子どもの学びを支える学校づくりということで書いてあるんですけど、ここで子どもたちにつけたい力とか、基本目標はぽんとあってもいいと思うんですけど、詳しいことがこっちに書かれ過ぎているもので、最初、重点目標のところを見たときに、これは何だったかなと思って、前をぺらぺらとやるような感じにはなったんですけど、でも、それならば、基本目標、確かな学力の定着などが並んであって、その横にやっぱりきちんと説明があったほうが、体系としては見やすいのかなとちょっと私は思っていたんですけど。

○葛西教育長 ビジョンの冊子のつくりについて。

○鈴木委員 そうですね。すみません、ちょっとうまく説明できなくて申し訳ないんですけど、確かな学力の定着ということで3つ挙げられていることを横に移して、項目だけをぱっと出していただくと、見たときに、子どもを支える学校づくりということで基本目標の4、5、こういうのがありますというのを持ってきておいて、横に説明がこっちの基本目標のところ詳しく書いてあるといいのかなとちょっと思ったんですけど、私としては。

体系図の中にきっちりと詳しく書かれているのもいいんですけど、こう書いてあると、最初に見たときに見にくいというか、ちょっと理解しにくいかなと一瞬、初めて見た私も。最初にぱっと見たときに体系図が分かりやすいというのであれば、やっぱり基本目標1、2、3というのが子どもにつけたい力というので下の説明はなしにして、子どもの学びを支える学校づくりというの、基本目標の4と5でありますというふうに端的にして、横に説明を加えていただけるといいのかなとちょっと自分で勝手に思ってしまったんですけど。

○葛西教育長 これはビジョンの冊子のつくりはどのように今想定していますか。

○渡部教育総務課政策グループリーダー 今御意見をいただきました施策の体系図と、あと本文の記載方法の関係性ということで御意見をいただいたのかなと思います。

施策の体系図は、かねてより定例会や懇談会で大分御協議いただいてまいりまして、分かりやすいスタイルになるようにということで目指してまいりましたが、やはり御指摘いただくように、特に今いただいた下の部分、基本目標1、2、3、4、5とあるその下に細かい具体の中身が書いてあることでかえって分かりにくいんじゃないかと、そんな御指摘だろうと思います。これを左の4ページ、基本目標が3つございますけれども、こちらに詳しくきっちり御説明を書いたほうが見やすいんじゃないかということだと思いますので、この辺りを含めまして、4ページにはより具体的な記載を、それから5ページ、施策の体系図、こちらの表にはもう少し端的な表現になるように、次回11日までに修正案を御用意したいと思いますので、よろしく願いいたします。

○葛西教育長 1ページに学校教育ビジョンの策定の趣旨、ビジョンの位置づけ、それから計画期間という、それこそ大枠の考え方が書かれていると。2ページに基本理念について、四日市が目指す子どもの姿、それから基本的な考え方が書かれて、3ページに施策と体系ということで、施策の重点がまず書かれておると。ここで、3つの重点、四日市市新教育プログラムの着実な実践、それからICTの効果的な活用、四日市GIGAスクールの構想、それから学校における教職員の働き方改革の推進と重点事項が書いてあって、そこにこういうことという説明書きが書いてあって、またその中のポイントについてもここで記載されていると。

4ページで5つの基本目標と。だから、5ページの下の部分についての解説が書いてあると。3つの施策の重点については一定きちっと説明がしてあって、5ページにはその①、②、③と書かれていると。ところが、5つの目標については、4ページにそれこそ総

括的な書き方がしてあって、5ページで細かい点まで書いてあるという、その辺の相関性のことかなと思いますので、そこは工夫をさせていただきたいと思います。

ほかに御意見をいただきたいと思います。

○伊藤委員 今のところでちょっと関連してなんですけど、よく検討していただいて整理、まとめてきていただいたというところは本当に率直に思います。今回いただいたものを見せていただいたときに、学校教育ビジョンが教育大綱を実現していくがための施策なんだと。そういうものを示しているんだという位置づけというのはもう1ページでよく分かるんですけども、この内容に入っていくときにまず言葉、「新たな動き」であるとか「新しい時代」というのが出てきます。

一般の市民が見られたときに、「新たな動き」というのが、唐突にぼんと出てくるので、一体何なんやろうなど。「新しい時代」というのも、これは説明の中でつないでいくとよく分かるんですが、超スマート社会（Society 5.0）と感染症も含めて予測不能、予測できないこういう時代に入っている。そういうことを併せて新しい時代ということ、これは国全体的な中でも言うことなんですけど、そういうふうなところが何を言わんとしているか、何を指してそれを言っているのかというのはちょっと分かりにくいというふうに感じました。

そういう意味で、四日市はこういう子どもを目指しますと。その姿を実現するための基本的な考えということで、2ページの後半に書いてあるんですけども、これは大綱の5つの理念を示して、これをより具現化していくために、やはりいわゆる今まで取り組んできた「生きる力」、「共に生きる力」を継続しながらも、今の時代を受けて、いわゆる資質能力という意味で3つ、言語能力とかいろいろありますが、こういったところに力を入れてやっていきたいというふうな、そういう流れになっていくと思うんですけども、そういう意味で、流れとしては分かるんですが、言葉の整理をもう一回、そういう意味でしていただけたらなというふうな感想を持ちました。

それと、その後なんですけど、基本目標と施策の関係が、基本目標は5つの目標があって、施策の重点とどういう関係であるかというのが分かりにくさを含んでいるのは、進めていくのは3つの重点的な注力したい施策をぼんと先に持ってきたほうが分かりやすいのか。いや、今後子どもが目指していくのは基本目標、これを確実にやっていくこと、つけたい力とそれを支える学校づくりというもの、それをやる中で特に注力したい重点的な施策はこの3つなんだというふうな位置づけをしていくのか。



5 ページの図を見ると、確かにこの説明の流れになるんやろうなという気もするんですけど、読んでいては何か収まりが、後を読んで、なるほど、こういうことをやっていく中でこれをというのは、逆に説明としてはつながないと分かりにくいような構成になっていないかなというように、自分たちがずっと見ている中ではこれで十分分かるんだけど、初めて見られた市民の方々が四日市は何がしたいんやというところがすきっと分かるような構成をもうちょっと検討されてもいいのかなというふうなことを、ちょっと勝手なことですけども、思いました。

それから、もうちょっと細かい5 ページぐらいまでのところで言いますと、5 ページの確かな学力の定着、基本目標1のところは、以前の項目とといいますか施策をまとめてこうやってされたんですけども、ちょっと気になるのは知識や技能の定着ということと、それから思考力、判断力、表現力の育成ということと学びに向かう力、人間性の涵養という、この3つは必ず挙げられてくることがあるんですけど、その中で問題を解決してという2つ目のそれが、融合した形の書き方をされているということと、上のやつにつないでいくと、言語と問題解決はここで表現はすぽっと入ってくるんですが、情報活用のことがこの中に言葉として出てこないの、ちょっとそういう意味ではそれを意識した書き方をこの項に入れておく必要があるのではないのかなというふうなことを思いました。いわゆる情報とか情報技術を適正、効果的に使う力みたいなもの、そういう情報活用能力の内容がちよっと入ってきてもいいのではないかなと、そんなふうには思いました。

6 ページは、以前言った目指す子ども像であるとか、そういうのは的確な表現を練っていただいたと思っています。

取りあえずは以上です。全体ではそんなところですよ。

**○葛西教育長** ありがとうございます。施策の重点としてこの3つをやっていくと。その中で子どもにつけたい力を5つ、これらを醸成していくとか、あるいは子どもにつけたい力の基本目標が5つあると。これらをするために、それらを横串で刺していくのがこの施策の重点という、そういう考え方ではないのかと。そこのところがやっぱり曖昧になっているので、読む方にとってみればどうなのかなということを思うと、そういうこと、それから、子どもにつけたいところに基本目標1から5まであるわけだけども、その箱の中に三角印でそれぞれポイントが書いてあると。このポイントの中に情報活用能力、これをしっかりと身につけていく、活用していくという視点が要るんじゃないかという御指摘だったと思います。

今、僕、伊藤委員の話を聞いていて、箱の中に入っている三角のポイントなんですけれども、このポイントが6ページの子どもにつけたい力、子どもの学びを支える学校づくりで、全部で28項目にわたって書いてあるんだけど、それとここに書いてある三角印との関連というんですか、そういうことについては今、意識されているでしょうか。その辺りはどうでしょうかね。

**○渡部教育総務課政策グループリーダー** 今、教育長にまとめていただきました点につきまして、基本目標の下の三角印の表記でございますけれども、主立ったところを抜粋してお伝えはさせていただきましたけれども、それぞれ基本目標に対しまして施策、これと、それから子ども像、学校像等々を含めまして、1対1の関係に今きっちりなっているわけではなくて、要約しておまとめた形になってございます。

この辺り、伊藤委員からの御指摘、それから前半の鈴木委員からの御意見、御指摘を含めまして、やはり市民の方が見たときの、第4次学校教育ビジョンで、四日市市の教育とは、こういうことをしようと、こういう子どもを育てたいんだというのが端的に分かるようにやはりきっちりした書き方をして、かつ今、5ページの三角印のところは隣に4ページの5つの基本目標のところをしっかり書き込んでいくと、そんなことでまず整理が必要かなというふうに受け止めをさせていただきました。

お答えになったかどうか分かりませんが、以上でございます。

**○葛西教育長** 分かりました。三角印のポイントについては、6ページのそれぞれのこれらの視点についてまとめてあると、そういう位置づけであると、そういうことですね。

豊田委員、お願いいたします。

**○豊田委員** 私も1個ずつお話ししてきたときにはよくできておると、分かりやすいなと思っていたんですけど、1冊になると流れで、もう既にお話しになっている基本理念、施策と体系と流れていく、特に施策と体系のところの施策の重点、基本目標、体系図という流れがどうやってつながっておるのかなとか、展開の順番がいいのかなみたいなのは違和感を持っていました。

それから、そうなると、新教育プログラムがビジョンの全体構成の後ろにばんと入っているんですけど、これも見ていたのでとてもよく分かるんですけど、ここに位置取りが、特にタイトルもなくばさっと入ってきていると、これの関係がまた前のものとの関係性でここに入っている意味というか、それがちょっと分かりにくいかなというふうに思いましたので、全体構成とかレイアウトの部分かなとは思うんですけど。

それから、物すごく細かいところで恐縮なんですけど、11ページの働き方改革で、これも何度も見せていただいているんですけど、これの取組時期の、仕事の総量を減らしますというのは確かにそうなんですけど、ここだけ見ると、教育していくのに教育する人のやっていたものが減ったら質は大丈夫なんだろうかと、中を見たら働き方改革なのということなんですけど、仕事量はある程度決まった量で提供されるので、そこを1人の人については分散して減っていくことなんですけど、これだけをぼんとういうふうに文字で今改めて見せていただくと、総量を減らして四日市の教育は大丈夫かみたいに逆に思ってしまうような表現かなと。

インパクトがあるので、ここにぼんと文字で、例えばデジタル化の推進、すごいとか、専門人材の活用はなるほどとか、最後のところに時間を意識した働き方、これは大事なことだよなというけど、総量を減らされると、今までできて提供されていたサービスが落ちるんじゃないかみたいなことにならないかなと、受け取りが。中を読めばこういうことなのねとは思いますが。だから、ここもちょっと言葉の表現を変えていただいたほうがいいのかというふうな感じを受けました。

それから、これもちょっと細かいことで恐縮なんですけど、5ページとかなんですけど、今度また構成いただくときに、色合い、これはユニバーサルデザインのところを考えたときに見やすい文字なのかなというのが、やっぱり読まれる方が読みやすくないと難しいかなと。私ももうこの年になると、例えば基本目標4とか基本目標5のところって文字がちよっと読みづらくなってしまいます。

○葛西教育長 ぼやっていますよね。

○豊田委員 やっぱり色の捉え方が難しい方だとどうなのかって、ちょっとその辺は詳しくないので分からないんですけど、そこが。もし続きで見るのであれば、次の6ページのところで使われている色とそろえていただくと、この色を追っていくと分かるみたいなのところがあるのかなというふうには思ったりもしました。

以上でございます。

○葛西教育長 ありがとうございます。

いずれもしっかりとこれは検討しなきゃならない点かと思しますので、事務局で再度検討させていただきます。

数馬委員、お願いします。

○数馬委員 皆さんが言っているのので、付け加えるということがさほどござい

ません。今、豊田委員のおっしゃった5ページの色合いについては、豊田委員のおっしゃったように6ページのものと同通ずることにしていただくと、初めて見る方にも優しいのではないかというふうに思います。

6ページの色合いは、とても優しい色合いで見やすく、6ページだけ見ていただいてもおおよそのことは分かっていただけるというふうに私は感じております。また極端なことを言って申し訳ないんですけど、前のページがなくても6ページを見ていただくとというのが、とても今回よくまとめていただいているなというふうに思いました。

それと、7ページも同じように色をうまく使っていただくといいかなと思います。ページ上の相通ずるところのものは色で横串を刺すようにしてはどうかと感じております。

○葛西教育長 ありがとうございます。

作った人も作ったときも異なりますので、それぞれいいようにと思って作るんですけども、全体のバランスが欠けていると。

○数馬委員 だから、全体でということになると、あとはもうまとめるという感じになると思うんですけど、それだけでもすごく説得力があるようになると思います。まとめているのはもう毎回、私、1年生なので、昔から頂いた資料を見させていただいて、どんどん分かりやすくなっているというのは感じておりますので、ありがたいことだなというふうに思っています。

○葛西教育長 6ページに、注力したい施策の重点、四日市スタイル、質の高い教育があって、①新教育プログラムの着実な実践とあると。それが、要は7ページの四日市市新教育プログラムになっており、そして6ページの②のICTの効果的な活用、これが、9ページ、10ページの四日市市GIGAスクール構想、③の教職員の働き方改革の推進、これが11ページの四日市の公立学校における働き方改革ver. 2になっているわけなんですけれども、つながりがなくてそれぞれが入ってきているということになっていますので、全体的な構成、つながり、それから色合い、色調、これをちょっと工夫する。そういう最終の段階に来たのかなと思っております。本日はいい御意見をいただきましてありがとうございました。

○伊藤委員 13ページ以降のことで、まず成果指標について感じたんですけども、特に問題解決という意味で、以前、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいるかというふうな質問要旨があったと思うんですが、こういうのは今回成果指標には取り上げていないということは、シンプルにするという意味では、その中でもどれがということ

でこうなったのかとも思うんですけど。

それと、こころとからだの健全な育成の成果指標の中に、体力的なこととか、そういう部分が入っているんですけど、例えばいじめに関することとかは下の3に入るより、むしろ2の人権教育の指標に近い形で今まで取り扱われてきていたと思うんですね。そういうところはもうちょっと精査したほうがいいのではないかなと。

それぞれの施策の中での指標はそれになっているんですよ。いじめのところはこの項目になっているんですけども、心の部分でどういう指標を持ってくるかというのがこの中では、この3つではカバーできないのではないかなというふうなことで、成果指標をもう一度見直していただけたらなというふうには思いました。

○葛西教育長 確かにそうですね。自他の生命を尊重する態度、これはよりよい未来社会を創造する力の根源的なものですので、ここに入れるとしても心の部分について、この①、②、③、これだけではカバーできないという御指摘はもうそのとおりだと思いますので、これはやはり1つ考えなきゃならない点だなと思いました。

○伊藤委員 それと、ここに挙げている成果指標と各施策に挙げている指標の関係とか、以前は取組指標というのがありましたけれども、その取組をなくして指標という表現をしてあります。その辺りは意図があるとは思うんですけども、この構成をどう考えるかというのも1つあります。

それと、14ページの主体的・対話的で深い学びの実現という、これは授業改善において今一番のメインになる内容であり、今後進めていくことなんですが、破線での囲みの中で、最終的には個別最適な学び、協働的な学びを目指しますというところで終結するのが、これは本来ICTの活用における、より進めることの内容で、GIGAスクール構想の中で以前このビジョンも使われていて、本来は先ほど言っていたように、やはり主体的・対話的で深い学びの習得であり、思考力どうこうの育成であり、人間性等の、そういった涵養をいかに進めるかというのは、今の時代に合わせた場合に、特に進めなきゃならない授業改革なんだという視点で、もうちょっと最後の授業改善に当たっては、こういうふうにICTを効果的に活用して、より個別に対応した学びとか協働的な学びを進めることで、いわゆる主体的・対話的で深い学びにつなげる結論づけをしたほうがすっきりいくのかなというふうに思いました。

○葛西教育長 そうですね。個別最適な学び、協働的な学びというのは手法、方法論ですよ。目的は主体的・対話的で深い学び、これを実現していくという目的だから、結論が

そこにあったほうがいいというお考えなんですね。

○伊藤委員 それと言語活動、17ページのことなんですが、これも一般的な方が読まれた場合に、頭で、育てたいのは言語能力なんだと。ここで出てくるのは読解力という言葉が主役になってきます。この関係って一体何なのというのが分かりづらい。

いわゆるPISA型の読解力は、文科省の言う言語能力とほぼ同じというふうに考えれば、知識とか情報を持っている方はある程度そういうベースで読んでいくと思うんですけど、言語能力の中にある、多くの部分を占めますけれども、読解力というふうな包含関係を考えると、ちょっとここは何か注釈が要るか、整理したほうが分かりやすいのかなというふうに思いました。下の新教育プログラムのここにある読解力がまさしく、今目指そうとしている言語能力の育成そのものなので、余計にそういうことを思いました。

○葛西教育長 言語能力の中核となる読解力向上という関係性が分かるような表現をしていくべきだということですね。

○伊藤委員 次の18ページの施策の内容には、(1)の1つ目の丸、教科横断的な学習を通し云々として授業づくりを推進しますということになっていくんですが、論理的思考力の育成が必ずしも教科横断的な学習だけを通してやるわけではないので、この辺りは表現的にはもう少し幅を持たせたほうが、というのは、下のプログラムについても、プログラミング思考であるとか、いろんな範囲を含めてやっていくことなので、それも限定し過ぎてしまっても苦しくなるかなというふうに。

それから、気づいたところだけどんどんいきます。

28ページの四日市の資源を生かした教育の推進という、ここは教育行政的な視点で書くと、確かに博物館の持っている素材とかそういうものを活用していく、また、久留倍官衙のところも活用していくということとか、そういうことをずっと書いていただいているんですが、企業連携とかね。各学校がどう進めるかという意味で、地域の文化であるとか資源を生かしたという、そういうことに触れたところがちょっと少ないので、教育プログラムの中では、小学校は特に、のびゆく四日市を挙げられています。これは上の施策にはあまり関係した記述がないんですね。そういう意味では、子どもたちが、本当に地域であったり四日市全体のものにつながっていける、またそういうことを感じていける地域資源というものを本当に活用した教育というものはどんなものかというのは、ある程度もう少し、そういうことにも関わって記述したほうがいいのかなと思うんですよ。

○葛西教育長 そうですね。地域に根差した郷土教育、その場合、それぞれの小中学校と

いうのは行政区を中心にして行われていますので、そこでの地域教材を子どもたちがしっかりと学んでいく中で、社会的事象、あるいは自然事象に対する認識を深めていくということがありますので、基盤は地域学習にあると、そういうことを入れておくべきだというような視点ですね。

○伊藤委員 感想ですが、それから、36ページですけども、これは自分もすごく悩むというか、難しいなと思ったんですが、基本目標の意欲的な学びを保障する支援体制の充実という、文字だけを読むと、ここの内容に書いてあることとぴたっと合うのかなとか、例えば就学援助であるとか奨学金であるとか、そういうものが意欲的な学びを保障するという、意欲的な学びというのは大きな言葉なので、学習活動でもそうやって使うし、この言葉がぼんと頭に出てくるので、ちょっと自分もいい言葉がないのかなとか、ある制度の中では、学びたい気持ちを支援するとか、そんな言葉も使ってあったんですけども、ちょっとここは私もいい言葉があまりなかったんです。ただ、ぱっと読んだときに、入ってきにくかったので、ちょっと勝手な言い方ですけど。

取りあえずそんなところですよ。

○葛西教育長 ありがとうございます。

では、今、意見をいただいたんですが、総括的にどうですか、事務局。

○渡部教育総務課政策グループリーダー 今、伊藤委員から多岐にわたって、個別施策のところの主に表現の部分について、表現の部分といいますのは書き方、表現の仕方の問題、それから表現文そのものといいますか、視点の欠落、そういったところを中心に御指摘をいただいたところでありまして。

この辺り、それぞれ各ページで担当課がございますので、こちらともう一回、今日いただいた意見を再度検討課題のステージに乗せまして、また11日に何らかの形で御協議させていただきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○葛西教育長 よろしいでしょうか。

○鈴木委員 20ページなんですけれども、公立幼稚園・保育園についてなんですけど、教育プログラムとかそういうのも施策として、公立の幼稚園、保育園も行くと思うんですけども、前ちょっと聞きそびれちゃったので、私立も四日市の施策をお願いしてやっていくということなんですよね。

ちょっとそこが疑問だったのが、今、私立幼稚園のほうが物すごく人数が多くて、公立

幼稚園・保育園のほうが人数が少ないというのもありまして、それが私立にもちゃんと行き渡るのかというのが、やることというか、各園でビジョンみたいなものを決めてやるというふうになっていくとは思うんですけども、そのところがどういうふうになっているのかなとちょっと思いまして。

どうしても施策を度外視して、保護者としては幼稚園とか保育園、私立の幼稚園はこれがあるから、保育園はこれがあるからと言って選択することが多いと思うんですね。公立幼稚園はもちろんそれで、近いからとか、ここだったらというのも思うかもしれないんですけど、幼稚園だと今バスで迎えに来てもらったりとか、そういうこともあるので、保護者としてはそういう親のニーズに合わせて選んでいるというところがあるので、その施策が取組としてちゃんと行っているのかなというのを聞きたいなと思ったんですけども。

**○渡部教育総務課政策グループリーダー** 今、鈴木委員から、公立あるいは私立の保幼の関係で、その辺りが親御さんのニーズに合いました施策がきちんとできているかというところでの御質問だったかと思います。

今、四日市の保育園、幼稚園、これはこども未来部が所管しております、そちらで子ども・子育て支援の関係の事業計画という、別の体系立てた計画をつくっております、各種の子どもの施策が織り込まれております。

その中で、そちらの計画は5年に1度全体のつくり直しをします。さらに言えば、中間年度に見直しを図ると。その中に、保護者代表としまして、策定する委員にそれぞれ保育園、幼稚園のPTAの方も入っていただく中で、同じように意見を聞いて、施策をどうしていこうかと、ちょうど今、皆さんに教育でつくっていただいていますこのビジョンと同じような形を取り、さらに施策の評価という部分も毎年行っているというふうに聞いてございます。

そういう意味で今日、教育委員会会議のこういう場でこういった心配のお声があったということは、この後、私から担当部局のこども未来部に話をさせていただきますし、必要があれば、そういった資料もまた御提示いただけるようにしておきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

**○鈴木委員** 分かりました。ありがとうございます。

**○葛西教育長** よろしいでしょうか。

#### 4 閉会



○葛西教育長 それでは、次回のことについて、教育総務課長から説明を願います。

○杉本教育総務課長 次回でございます。8月4日水曜日9時30分から教育懇談会ということで、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の対応についてということで、桜中学校で部活動の様子を御覧いただきまして、その後懇談ということで予定させていただいております。よろしくお願いいたします。

以上です。

○葛西教育長 以上をもちまして、令和3年第10回教育委員会会議を閉会いたします。どうも御苦労さまでございました。

午前10時54分 閉会